

第 7 9 4 回むつ市教育委員会会議 会議録

1	開会及び閉会に関する事項	令和8年8月20日（木）　13：00 ～ 13：45 むつ市役所本庁舎　第4会議室
2	出席委員及び欠席委員の氏名	【出席】　教　育　長　阿　部　謙　一 委　　　員　田　中　志　昌 委　　　員　納　谷　順　子 委　　　員　黒　木　和　之 【欠席】　委　　　員　長　岡　俊　成
3	説明のために出席した者の職及び氏名	教育部長　杉澤　一徳 次長総務課長　柏谷　圭則 副理事生涯学習課長　横山　拓子 副理事学校教育課長　齊藤　靖浩 副理事地域クラブ企画推進課長　菊池　円 中央公民館長　畑中　正行 副理事大畑公民館長　金田　貴裕 川内公民館長　高橋　康強 脇野沢公民館長　須藤　昌弘 副理事図書館館長　柳谷　恭子 副理事防災食育センター所長　小林　睦子 【事務局】 総務課主幹　澤谷　武志 総務課主任　北川　京弥
4	委員又は教育長等の報告	なし
5	議題及び議事に関する事項	教育長　それでは、ただいまから「第794回むつ市教育委員会会議」を開会いたします。会議録の署名についてであります。今回は納谷委員にお願いいたします。 本日は、議案が1件、報告が1件となっております。それでは、議事に入ります。 ●議案第1号 「天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（一時捕獲）等許可申請に対する許可について」（生涯学習課） 教育長　議案第1号「天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（一時捕獲）等許可申請に対する許可について」、事務局からの説明を求めます。 生涯学習課長　議案説明の前に、前回の教育委員会会議で田中委員からご質問のありました下北半島のサルの管理目標と頭数につきまして、市の鳥獣対策グループに確認をしましたので、ご報告いたします。

	管理目標につきましては、下北半島鳥獣被害防止計画の中の対象鳥獣の捕獲計画、捕獲計画等の設定の考え方の中で、『計画期間内の捕獲数は、地域個体群として永続的な生息が可能な、平成14年の調査個体数（1, 109頭）を下回らないこととする』と記載されておりますことから、この頭数を一つの目安としつつ、農作物被害対策として、行動域の拡大や個体数増加に伴う群の分裂防止を目的とした捕獲を実施していくとのことです。 (説明)
教育長	ただいま事務局より説明がありましたが、本件についてご質問などはありませんでしょうか。
田中委員	説明を聞いた感じでは、数は一定数を維持しているということでしょうか。
生涯学習課長	むつ市内の個体数は1, 400頭前後で推移しております。
田中委員	増えているわけではないということでしょうか。
生涯学習課長	増加傾向ではありますが、最近になって大きく増えているというわけではありません。
田中委員	たまたま見かけることが多くなったということか。サルが群が住宅地に近づいてきただけで、個体数が増えて住宅地に押し寄せているということではないという認識でしょうか。
生涯学習課長	以前に比べてサルの活動範囲が脇野沢地区から東に移動していることや、ハナレザルの頭数が少し増えていることなどが考えられます。
田中委員	それが目に付くようになって増えているように感じるだけで、個体数が増えているというわけではなく、頭数は維持されているということで理解した。
教育長	その他ありましたらお願いします。 ないようですので、議案第1号は、原案のとおり可決することとしてよろしいですか。 (異議なし)
教育長	それでは、ご異議がございませんので、議案第1号は、原案のとおり可決することといたします。

	●報告第 1 号 「天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（捕獲）許可について」（生涯学習課）
教育長	次に、報告第 1 号「天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（捕獲）許可について」、事務局からの報告を求めます。
生涯学習課長	（報告）
教育長	ただいま事務局より報告がありましたが、本件についてご質問などはありませんでしょうか。 ないようですので、本件については以上とさせていただきます。
	●その他
教育長	それでは次に、「その他」となりますが、まずは、委員の皆様から何かありませんでしょうか。
黒木委員	私が中学生の時は、市内の中学生が全員受ける模擬試験、確か東奥日報社が実施していたと思うが、そのような試験を今は実施していないということを聞いて驚いた。今は学校の定期テストしかなく学校の中での順位しかわからないため、子ども達が自分の学力を相対的に把握する機会がないということは大きな問題だと思う。 東奥日報社の試験がなくなったために学校も実施できなくなったのかもしれないが、模擬試験を行っている業者はあるので、市が負担してでも絶対に実施した方がよいと思っている。
教育長	まずは現状について事務局から説明をお願いします。
学校教育課長	模擬試験という名前ではないですが、実力テストという試験をほとんどの中学校で 1、2 年生が年 3 回、3 年生になると年 5、6 回ほど実施し、その実力テストでどのくらいの点数を取ればどの高校を目指していけるという目安となるよう、点数だけではなく自分の実力を測る試験として実施しております。 また、市といたしましても春にベネッセの試験をしております、どの分野がどの程度伸びている、または落ちているのかということなどを分析し、各学校の指導助言に生かしているというような状況です。
黒木委員	その実力テストというのは、主体が誰で、エリアが何処で、子ども達は自分の順位がわかるのか。

	私が絶対に必要と思うのは、自分が日本で何番ぐらいかということがわからないと、ただ試験を受けさせられているだけで無意味に終わってしまうので、ベネッセの試験も含めて教えていただきたい。
学校教育課長	学校の実力テストにつきましては、学校が主体で実施しております。範囲としましては学校の中の順位しかわかりません。 ただ、ある程度それぞれの学校の平均点は聞こえてきますので、学校には何点以上の生徒が何人いるというような情報は入ってきます。
黒木委員	それは子ども本人が、学校の中の自分の順位がわかるのか。
学校教育課長	はい。また、ベネッセの試験につきましては、下北の中でどの位置にしているかわかるようなエクセルデータを学校に渡しておりますので、生徒の要望に応じて学校から全体の中の何位ということは伝えることができる状況にあります。
教育長	ただいまの説明に少しだけ補足させていただきます。 黒木委員がご指摘のように、昔は模擬試験があつて、新聞にも大きく順位が掲載されて、自分がどのくらいの位置にいるのかがわかるようになっていました。 今は学校主体と申し上げましたが、学校が業者テストを選んで子ども達に受けさせているという状況になります。
黒木委員	実力テストというのは業者テスト、外部委託ということでよいか。
教育長	その通りです。そして、昔と異なるのは全体で何位くらいにいるのかというような細かなデータが提供されません。よって、学校側としても自校の生徒の順位しかわからない。エリアや範囲も下北全体で何位というところは、大規模校であればある程度把握できると思いますが、小規模校になると他の学校と細かな情報共有をしなければ把握できない状況にあり、それも簡単にはできない状況になっています。 中学3年生は5、6回という説明がありましたが、それぞれの学校が業者テストの何回目を受けるか異なりますので、各学校が一緒の回を受けなければ比較できないことから、今は全体の順位というものが非常にわかりづらくなっている状況にあります。 そして、全国で何位かというお話がありましたが、これに関しては高等学校であれば共通テストがあるので、模擬試験によって全国の順位が出ますが、小中学校にはそのようなシステムがありませんし、そのようなテストの概念もありません。 もちろん「小中学校・全国テスト」というように新聞やテレビでたまに出てきたりしますけども、それは希望者が受けているテストとなりますので、自分が同じ学年の全国で何人中の何番にいるというのがわかる状況にないということが、今の制度上の一つの実態となります。

黒木委員	その外部業者の実力テストを学校毎にやっていることの意味がわからないのだが、何故一斉に同じ試験をやらないのか。 つまり、下北エリアというだけでも母数が少ないのに、それが学校毎というのであれば正直やらなくてもいいのではないか。それなら定期テストだけでいいし、それすらも無意味ではないかと思っている。 少なくとも昔の東奥日報社の全県エリア、そのくらいの標本母数を確保できる模擬試験というのは、青森県にはないのかどうか。
学校教育課長	下北の学校で実力テストの第何回ということでは、ある程度学校で合わせて受験しますので、大体自分がどの位置にいるというのは点数から把握することはできるのかなと思います。 学校の定期テストは1学期のこの範囲までというように決まっていますが、実力テストはそれまで教わった部分がテスト範囲になりますので、自分の実力がどの程度身についているのかということを図るための一つの指標になるのかなと思います。
黒木委員	少しわからないので整理させてください。 青森県の全中学生を希望者だけでもいいので、下北とか狭いエリアではなくて少なくとも県規模のエリアをカバーしている一斉テストで、他地区の生徒と相対的に自分が何位にいるかがわかるテストはないのかどうか。 ないのであればそれ以上は言わないが、あるのならそれをやればいいのではないかということ。実力テストでは他校の生徒と比較ができないことを言っている。少なくともむつ市や下北地区で順位をつけて、子ども達本人に知らせるべきで、そうであればテストとしては意味がある。学校の定期テストでいつも1位だった生徒が、その実力テストになったら20位になったという生徒は現実的にいないでしょう。学校の中だけしかわからない実力テストでは意味がないと言っている。自分の学校以外のエリアで勝負することに意味がある。例えば、もし甲子園野球大会がなかったら、高校球児は地区大会しかないため、誰も一生懸命やらないですよ？ということ。
学校教育課長	全員一斉に受けるテストというものはないです。
黒木委員	それは市内に物理的にないのか。県全域をカバーしている模擬試験はないということか。
学校教育課長	県全域で一斉に受けるテストというものはないです。学校が申し込むので、全部の学校が一斉に申し込めばできなくはないと思います。
黒木委員	それで言えば昔の東奥日報社の全県テストもそうだったと思うが、それでいいのですね。

教育長	現状は、学校教育課長が申し上げたとおりになります。 テストがなくなった経緯につきましては、過去、模擬試験のデータを学習塾が全部持っていて、学習塾がそれを全部解析して、この成績であればこの学校だと○△×というように学習塾が指導して、学校が進路指導をしないということが社会問題化したときに、模擬試験というのは本来そういうものではないということで、そうしたデータの集積というものを学習塾は禁じられ、学校にもそれを目的とした模擬試験をしないよう文部科学省から通知されたことがありました。 その時から今の子ども達は縛りができて相対的な順位がわからない状況となっていますが、それが好ましくないということは、ご意見として頂戴します。高校受験のときは市内の順位が必要であるというお話も承知いたしました。 我々も全体の順位というものは必要であると考えて、教育委員会から学校に対してエクセルデータを加工して、生徒の正答率等を入れると、例えば、国語は市内300人中で何位というのがわかるようなシステムを作って渡していますし、進路指導にも活用してもらっています。 先程の学校教育課長の説明にもありましたが、各学校が第何回のテストと一緒に受けようと情報を共有すれば一斉試験と同じようなかたちでできますが、学校行事等の関係から実施は難しい。もう一つはやはり個人データになるので、自分の学校のデータを全部共有することは、地区でも県でもそれはなじまないのではないかとというのが今の学校教育の共通認識ではないかと理解しております。
黒木委員	結局、それは都市部とローカルの教育格差を拡大、促進しているだけで問題を悪化させていると思う。 都市部の子ども達は自分の通っている塾、例えば「東進ハイスクール」とか、そこが完全管理してくれて、そこの模擬試験を受ける度に自分がどのくらいの学力が常時把握できる状況にずっといる。 今のむつ市の子どもは、霧の中にいて自分が何をやっているのかよくわからない状況のまま放置されているような感じである。つまり、「君は学校で何番。」と言われても、自分の学校の中の実力しかわからないので、学校だけのテストは無意味である。有意義なことをできないと言うのであれば、これは諦めるしかないのか。 先程も言ったが高校野球と学校の勉強は同じだと思っている。野球じゃなくてもいい。ナンバーワンになろうとか、より強くなろうとか、県で優勝しようとか、子どもなりの目標を立てて、それに向かって努力すると思う。学校の中だけで一番になるということは意味があるか？ってくらい小さいこと。「子どもに夢を。」とか「自己肯定感を。」とか掲げている場合ではなく、自己肯定感は世界一を目指すことで、それが無理なら日本一、それが無理なら東北一、青森県一、別に勉強だけではなく何でも同じだと思う。 その機会を提供できなければ学校教育とはそもそも何なのかとすら思う。 スポーツのように勝ち負けがあって、それはテレビゲームでも囲碁でも将棋でも同じだが、それがおもしろくて勉強する生徒はいっぱいいるのに、その機会を奪っ

	て、常時モヤモヤした霧の中で手探りしている状況に子どもを置くというのはどうなのか。
教育長	まったく同感です。 高等学校で18歳になったとき、皆、たった一人の全国大会に放り出されるわけです。高校を卒業して大学進学するにしても就職するにしても、全国の自分と同年代の子どもが相手になりますよね。このたった一人の全国大会を勝ち抜く力があるかどうか、そこには全国エリアの指標がなければ意味がない。そういうことを考えて義務教育9年間、高校3年間で駆け抜けなければならない。 もう一つは本当に残念ですが、公的な手段として県内での順位、全国での順位を求めるシステムが小中学校にはないということが一つあります。 子ども達はワークブックと同じ問題は解けても、問題を少し変えると回答率が下がる。普段触っていない問題にトライさせることは非常に効果的で、単年度ごとではなくて広い範囲の問題に取り組むという経験をさせなければならないので、模擬試験には一定の価値を持っていると考えております。
納谷委員	下北の中での順位というか、このくらいの位置にいるというのは、三者面談の場とかで本人が教えて欲しいと言ったら教えてもらえるのか。それとも教えることができるということは周知されているのか。
学校教育課長	教育委員会から学校へ通知する際にいくつかのパターンを示しておりまして、その点数の部分に関しましては、子どもや保護者が希望した際には教えることができるしておりますので、基本としては希望者へお伝えしている学校がほとんどだと思います。
納谷委員	希望できるということを保護者や本人が知っているのか。
学校教育課長	その面談の際に「聞きたいですか？」と確認していると思われます。
納谷委員	私の子どもが中学生の時に順位を知りたくて、おそらく学校ではない外部の試験を受けさせたが、学校では把握していないと言われたので、自分が下北、県、全国のどのくらいの位置にいるのかがわからない状況で高校受験をしました。 学校でキャリア教育とか色々なことをして、「将来の自分はこれになりたい。」「そのためにはこういう資格が必要になる。」「その資格を取るためにはこういう大学や専門学校に進みたい。」「そこに進むためにはこの高校に行かなきゃならない。」というように、子ども達は自分で一生懸命調べて将来に向かって授業を受けているにも関わらず、例えば「この学校に行きたいです。」となっても、その目標としている学校に今の自分の学力が追いついているのかどうかまったくわからない状況、それこそモヤモヤした状況の中で「こうなりたいです。」という目標だけで進んでいくのは保護者としても不安です。

	自分の子どもがどれくらいの位置にいるのか本当に知りたくて、市外の会場で無料の全国模試があったので受けさせてみました。全国順位がわかってから子どもが頑張ったかは別として、そういうテストも受けさせないとわからない状況ということがありました。 将来に向かって勉強させたり調べさせたりしているのに、そこだけがモヤモヤしているというところは黒木委員と同感です。ただ、保護者の中でも全員が子どもの学力を知りたいというわけではないと思いますし、子ども達も運動で頑張りたい子どももいれば、勉強して学力の高い学校を目指したいという子どももいて千差万別とは思いますが、自分が今どのくらいの位置にいるのかということは、ある程度わかっていた方がいいと思います。 私も競争するということが大切だと思いますし、小規模校の1位と大規模校の1位では学力が全然違うと思います。大規模校はある程度の競争ができますが、一クラスしかないような小規模校は競争のやりがいもなかったりする。中学校で1番だった子どもが高校に行ったら順位が下がったというようなこともある。 例えば希望者だけでもいいので、全国統一模試のようなものを受けられるチャンスを与えたいと思います。公的に行うものではないかもしれないが、そういうことは可能なのかどうか。むつ地区の子ども達は塾があってできるかもしれないが、川内、脇野沢地区は塾の環境もないのでそういうチャンスもない。希望する子どもがいるかはわからないが、そういうチャンスを与えて欲しいと思っている。
教育長	検討するという返答になります。 わかりやすいのは英検ですが、一定の人数が揃わないと準会場にできないので市外の会場に行かないと受けられない。同様に、外部の試験があるとして、まずはその実施主体と協議しなくてはなりません。そして、仮にできるとしても任意のものなので、希望者の意向を確認した上でニーズがあれば、それをやることに関しては一切の躊躇いはありません。 自分の力を試したい子ども、自分を知りたい子どもがいるのに、今の環境ではそれができないため、市が会場を用意してまでもやりたいとなれば、市として実施可能な施策になるかと思いますが、そうした部分も含めて相手もある話になりますので、検討させていただきたいということでご理解いただきたいと思います。
納谷委員	学校のテストは人数も決まっていますし、一クラス20人から30人の中で試験を受けるという環境です。実際の高校受験や大学受験になったら100人規模で同じ会場で受ける環境もある。小規模校の子ども達は同じ顔ぶれで受けているので、高校受験は会場の雰囲気だけで緊張してしまうこともある。一同に何十人も受けるという環境を小規模校の子ども達にも経験させてあげたい。できることであれば、そういう機会を教育委員会がつくってあげたいと思います。
田中委員	私の時代は中間試験や期末試験になると成績上位20番目くらいまでは名前と点数が掲示されて一目でわかっていたが、いつの間にかなくなったようである。

学校教育課長	今は公表するということはありません。
田中委員	いつくらいまであったのか、皆さんの時代はどうだったでしょう。 毎年、小学6年生と中学3年生の全国学力調査でもむつ市の結果は見る度に悪くなっているような気がする。 秋田県が高かったと記憶していますが、あれは対策をしているからだと思う。 結局、目標があって皆が走るから成績も上がるのであって、もし目標がないのであれば、全員を底上げするよりも、できる子どもを伸ばしてあげた方が本人達のためになると思う。今、議論されていたことは賛成で、やはり競争させなければならぬ。誰がトップかということを意識させなければ全体は上がらない。手をつないでゴールするみたいなことをやっていたら、東京の塾に通っているような子ども達のレベルに追いつけない。それを考えたら上を目指す人だけで走らせた方がよい。全体を底上げしようとして低い方に目をやっても今の状況は変わらないと思う。 市として、成績が上の子どもも下の子どもも全員を見るという方針にするのは構わないが、漠然と今のまま全体を底上げすると言っていたら、3年後も5年後も底上げできないままになるのかなと試験の結果を見て毎年思っている。だからこそ競争心は絶対に大事で、人間は競争させないと絶対に強くならない。 現在は競争させることで名前を出すのはよくないという人もいるかもしれないが、昔は自分の順位を意識していた。より上を目指している人間はより強くなるし、目指さない人間は違う方法で自分の将来を考えていくので、競争させることは悪くないと思う。あまり露骨にやってしまうと保護者の反感を買うのかもしれないが、ある程度競争心を持たす施策を考えないとならないので、公開模試のように競争させることも大事だと思う。
教育長	今、我々が考えているのは、「全ての子ども達の可能性を最大限に。」というのが信条です。平均の下の子ども達は平均まで上げたいし、「A+」の子どもを「A++」に上げたい。ご指摘いただいて気づきましたが、「A+」を「A++」に上げる施策が具体化されていないので、そこをもう少し頑張らなければならないということとして受け止めました。全ての子ども達を最大限に伸ばすということは、成績の高い子どもから低い子どもまで皆を伸ばすということで、そこは大事なことで、この場で確認させていただきたいと思います。 その他ありましたらお願いします。 ないようですので、それでは事務局からは何かありませんか。
防災食育センター所長	(防災食育センター敷地の一部の指定緊急避難場所の指定について)

教育長	その他、事務局からありましたらお願いいたします。
教育長	ないようですので、それでは最後に、事務局から次回の教育委員会会議の日程についてお知らせ願います。
総務課主幹	(事務連絡)
教育長	それでは、以上をもちまして「第 7 9 4 回むつ市教育委員会会議」を閉会いたします。
6 議決事項	議案第 1 号…天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（一時捕獲）等許可申請に対する許可について …原案のとおり可決
7 その他会議において必要と認めた事項	なし
8 会議録署名	上記の決議内容について明確にするため、むつ市教育委員会会議規則第 2 4 条の規定により署名する。 令和 8 年 9 月 3 0 日 教育委員会教育長 <u>阿 部 謙 一</u> 会議録署名委員 <u>納 谷 順 子</u> 会議録作成者 総務課長 <u>柏 谷 圭 則</u>